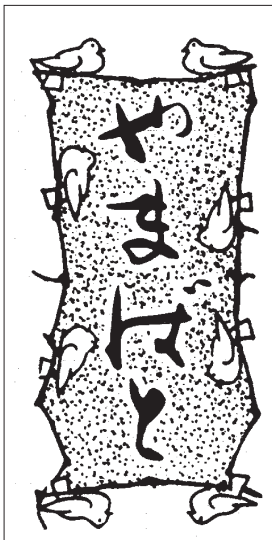



発　行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
郵便振替　00800－6－14641
頒価年額600円(〒共) 1部100円(〒共)
(送料・消費税込み)
寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

# 見えないものに目を注いで

（一）

新しい年になって、二週間余り過ぎましたが、「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします」。

今年は年頭から極寒の日が続き、豪雪による車の渋滞や人身事故等が報じられています。その上、新型コロナとオミクロン株の感染者数が激増したり、トンガ諸島の大規模噴火により突然津波警報が発せられるなど、年初から悩ましい出来事に見舞われていますが、皆様の心身が守られ、難題も解決されていきますよう祈っています。

さてお正月はすでに過ぎましたが、今回は年賀状を巡って考えたこと等をお伝えしようと思います。

賀状を書くとき、私は前年の賀状を参考にして宛名等を書いていますが、今回は、意外に多くの方がすでに逝去されている現実を知りました。「お元気で頑張って下さい」と励まして下さった方が今はもういらっしゃらない。この事実は、人のいのちには限りがあることを明白に気づかせてくれました。

いただいた賀状の中にも、「終活を始めました」とか、「高齢者ホームに転居」とか、「これをもって、年始のご挨拶は最後にさせて頂きます」というお知らせが年々増えており、友人知人たちも、知力・体力の衰えを自覚して、それにふさわしい生き方に変えていらっしゃることを気づかされました。

中には、「私は今後も賀状を出し続けます。へたばるまで送りますのでよろしく」といった個性的な宣言もあり、これもいいなあと感心？したのですが、いずれにしても、「終わり」が急に間近に感じられる年の初めとなりました。

（二）

かなり昔、「人は死ねばゴミになる」という本が出版されました。著者は、元検事総長の伊藤栄樹氏。確かに、人は、いのちの営みを終えると、その遺体が焼かれたりしてゴミやチリになります。しかし、聖書は、それだけでは終わらないいのちについて語り、それに目を向けるよう勧めていると思います。

「ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る。」（伝道の書12：7）

「わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。」（Ⅱコリント4：16）

「内なるいのち」とは何でしょうか。文豪トルストイが書いた短いお話をご紹介しましょう。

リンゴの老木から、よく熟したリンゴの実が、リンゴの若木のそばにポトリと落ち、若いリンゴに言った、「こんにちは、リンゴさん、あんたも早く腐って、この私みたいになってもらいたいね」「なんてバカなことを言うの。私が真っ赤な頬っぺをして、とてもきれいで、身がしまっていて、見るからにみずみずしいのが、見えないの。私は腐るなんてまっぴらよ。今の喜びに浸っていたいの」「だけどね、あんたの美しさ、あんたの身体なんてものは、どれも借り物で、そんなものには生命なんかこもってはいませんよ。生命というものはねえ、あんたの中にある、あんたが自分でも気づいていない、あの種子の中にだけあるんですよ」「種子？そんなものあるわけないでしょ。バカなこと言わないで」。若いリンゴの激しい拒絶により、会話は打ち切りになってしまった。

（三）

トルストイはこうも語ります。「自分たちの内部に精神生活があることを自覚しないで、ただ動物的な生活を続けている人たちも、

若いリンゴと同じように考えている。しかしながら、望むと望まないとにかかわらず、人は長く生きれば生きるほど、体力はますます衰え、これこそ自分の生命と考えていたものが次第に消え失せていく。逆に、本当の、絶えず成長する、死ぬことのない生命の出番となるのだ。とすると、いっそのこと、最初から、死ぬものと定められている生命ではなく、成長を続けてやまない、決して死滅することのない生命によって生きるほうが、よいのではあるまいか？

この世での一番大事な仕事は、目に見える何かを対象にした仕事（家を建てるとか、畑を耕すとか、家畜を飼育するとかいった仕事）だと、我々は思っている。自分の魂、目に見えない何かを対象にした仕事は、あまり重要でない、まあやってもいいけれども、別にやらなくても差し支えないと考えがちだ。ところが実はこれ、つまり、自分の魂を対象にした、日ごとによりよい、より善良な人間になろうとするための仕事、こうした仕事だけが本当の仕事であって、目に見える他の仕事は全て、この魂を対象にした一番大事な仕事がなされているときにおいてのみ、役に立つにすぎないのだ」。

このトルストイの言葉は、一年の歩みを始めるに当って、傾聴に値するものではないでしょうか。

（四）

今年は、お送りした賀状を読んで頂けなかった方々もいました。

一人は、詩人の香川紘子さん（享年八六歳）。丸山薫賞などを受賞し、詩人としての感性や才能を評価されていた方で、やまばと機関紙にも幾度か寄稿して頂いたことがあります。こんな詩があります。

**土に返す**

お母さん
脛（すね）といわず
その両手と内臓と
あなたの全身を齧（かじ）り　しゃぶり
食べ散らかした
重度障害者としての
　わたしの六十年
墓石の下で十八年間
辛抱強く待っていてくれた
　父（とめそで）の逞しい腕に
絽（ろ）の留袖に包んだ
わたしの食べかすの骨を
今　お返しします

詩から推察されるように、香川さんは、生後三か月で脳性まひと診断され、十歳の時は広島で被爆。学校教育ではなく、ご家族の助けと独学で、知識や思考力を身に着けた方です。八六歳で召されるまでほぼ寝たきりの生活で、起き上がって書くことができないので、詩作は全て口述筆記でした。私は一回だけ松山在住の香川さんを訪ねたことがありますが、若々しい声で様々のお話をされ、こちらは圧倒されるほどでした。

長年の苦悩は、ご家族の豊かな愛と詩作とによってやわらげられ、さらに信仰によって内的生活が深められ豊かにされたのでしょう。

「毛虫這えり　蝶となる日を夢見つつ」
「手を捧げ　足を捧げて　クリスマス」

これはハンセン氏病を患った玉木愛子さんの俳句ですが、香川紘子さんもきっと、神様とまみえる最良の日を望みながら希望を抱いて歩み続け、今やその日を迎えたにちがいないと思ったのでした。

「ご逝去」との知らせが届いたもう一人の方は、ご利用者の父上で、当法人の理事も務めて下さったAさんです（享年九六歳）。

誰もが認める愛娘家（こんな表現あり？）で、何かにつけ施設を訪れ、娘さんを膝に抱いてニコニコしておられたのを思い出します。

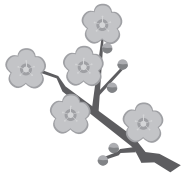
施設の草刈りなど環境整備のためにも率先して働いて下さり、私たちはとてもお世話になりました。

このコロナ禍でお会いする機会が減り、お元気に過ごしているとばかり思っていたのですが、今回、二度目の脳出血により逝去されたと聞き、非常にビックリしました。同時に、日頃のご無沙汰を申し訳なく思ったのでした。

きっと、娘さんのことを案じて旅立ったに違いない、そう思って、私は「娘さんのことは心配しないで下さい」というお別れの弔電を送ったのですが、この言葉は、Aさんだけでなく、保護者の皆様全員に対する思いでもあります。

時の経過とともに福祉ニーズも施策も変化し、私たちの活動も変わっていく面があります。いつまでも硬直的に同じ形に留まることはできないし望ましくもありませんが、どんな形になるにせよ、「お子さんのことは心配しないで下さい」と言える施設であり続けられますよう、また、そのような社会形成をしていくことができますよう、心を新たにした次第です。

〈理事長〉長沢道子



# 「いのちを与える方」につながって

遠藤　真理

長沢ご夫妻が始められ、五〇年に亘って歩み続けてこられた「牧ノ原やまばと学園」の歴史を読みますと、人知を越えた神様のご計画と、「神の愛」が広がる素晴らしさを知らされ、深い感動を覚えます。神様が働かれることを全身で感じた経験は私にもありますので、ご紹介させていただきます。

それは二〇〇六年の冬に横浜の捜真バプテスト教会で行われたヴラダン・コチさんのチェロ・コンサートの時のことでした。

コチさんはチェコ共和国のクリスチャンのチェリストです。共産党時代に、兵役を拒否した理由で投獄され、酷い拷問を受け、命が危険に晒されました。しかし一九八九年のベルリンの壁崩壊に伴ってプラハで起きたベルベット革命により、再び自由を得ることができました。私はコチさんとアムネスティの活動を通して出会い、東京で演奏を聴く機会もあり、その美しい演奏に魅了されていました。

そのコチさんからある日突然にメールが来たのです。「今度韓国の音楽大学でチェロの特別授業を頼まれ一か月ほど渡韓する。その間の休みを利用して、日本に行き演奏をしたいので、演奏の場を準備してもらえないか。報酬は全くいらない。『良心の囚人』としての経験も、若い人にシェアしたい。」

その日まで二か月を切っていました。これは一大事。しかしコチさんの演奏とお人柄の素晴らしさを知っている私は、この貴重なチャンスを無駄にしてはならないという強い思いに突き動かされ、すぐに「了解」の返事を送りました。

合唱団に属していた私は定期演奏会の経験があり、一つのコンサートに費やす準備の大変さを知っていました。ですから二カ月という短期間に全てを整えることは困難なことで、不安に駆られました。

まずは会場の手配です。所属する教会の牧師に相談したところ、無料で礼拝堂を提供してもらえることになりました。会場費とコチさんへの謝礼は考えなくてもいいことになり、チケットは販売せず、入場無料としました。当時私の教えていた学校の中高生が来られるように、夕方の時間帯を設定しました。パソコンに詳しい友人の協力でチラシを作成し、各方面に配り、アピールを行いました。アムネスティや教会の仲間に力を貸してもらい準備を進めました。そうこうするうちに段々と来てくれる人の数が増加。それは嬉しいことですが、チケットを販売していないので来場者の数を見極めることができません。収容人数の一八〇名を超えてしまい、会場に収容しきれなくなった場合の心配が襲ってきて、眠れない夜が続きました。

そしていよいよ当日を迎えました。人々が次々にやってきて礼拝堂はどんどん埋まっていきます。開演5分前、礼拝堂はびっしりと満席になりました。しかし席が無く立っている人は一人もいませんでした。それを見た瞬間、私の全身を稲妻が貫きました。「そうだ、このコンサートは神様が主催されたのだ。私は不遜にも自分がやっているようなつもりでいたが、神様が全てを完璧に準備なさり、そのために私を使ってくださった。」という衝撃でした。私はそれまで無我夢中でコンサートが無事に行われることを祈り求め、動いてきました。しかし本当に働かれていたのは神様ご自身だったのです。みぞれ交じりの真冬の平日の夕刻、静まりかえった礼拝堂にコチさんのチェロの音だけが響き、神の国が実現しているような不思議な感動に包まれました。

鬱に苦しんでいたある友人は、重い脚を引きづってやって来ましたが、帰る時は心が軽くなり、スキップするような足取りになったそうです。末期ガンのある女性は、丁度病院から一時帰宅が許されていた時で、ご夫妻で人生最後のコンサートを深く味わいました。それらは正に人の思いを超えた神様のみ業に他なりません。

舞台の袖からステージに出ていく間際、コチさんが語った言葉を最後に紹介いたします。

「もし私の演奏する音楽が私から出て行くのだったらそれは空しい。神が私を通して豊かに働き、神の霊が音楽となって出ていく時、初めて音楽にいのちが与えられる。」

(注)

◆アムネスティインターナショナル（AI）＝国家権力による人権侵害を初め差別や暴力に苦しむ人々の、自由と尊厳が守られる世界を目指して活動する国際人権NGO。一九六一年イギリスで発足。今では世界最大規模に。

◆良心の囚人＝非暴力にもかかわらず、言論や思想、宗教、人種、性などを理由に不当に逮捕された人のこと。

## がんばらない　あきらめない　大丈夫

野ばら保護者　杉本唯夫

振り返れば私が定年退職の半年前、娘が豹変した。大声を出し、周囲のものを叩き、倒し、動物のように動き回った時期もあった。その時は本当に絶望したが、薬を極限まで減らしたら、険しい表情から笑顔も見られるようになり、娘らしさが少しずつ戻り希望の光が見えてきた。発作は増えたが、頭がクリアになり、人の話が理解できるようになった。

今はまだ言葉はあまり出ないが「ガオー」「ゴー」と声を出したり、笑顔で気持ちを伝えようとしている。孫たちが来ると笑顔で喜びを体全体で表し、絵を描いたりゲームをしているとそばに移動し見ている。何と八年ぶりに鉛筆を持ち紙に〇を描いた。感無量だった。

娘の一番の楽しみは野ばらの昼食です。食事は利用者一人一人を考えて愛情をこめて丁寧に作られています。二番目は月一回のカフェ。三番目はマッサージ。野ばらと給食のスタッフの皆さんには感謝、感謝です。

たまに苛立っている時は「大丈夫、大丈夫」と声をかけるが、それを見たスタッフの「元気あるねえ」の言葉に救われた時があった。

現在、掛川の中東遠医療センターの障がい者歯科診療で虫歯の治療をしてもらっていますが、三回目の治療の時は自ら診療台に座りびっくり。女医さんが「いいよ、きれいになったよ、・・」と声を掛けながら治療して下さり、周りのスタッフも「大丈夫、大丈夫」と励ましてくれます。

地元にもこのような体制ができることを望みます。障がい者を育てることは「闘い」だといわれます。「がんばる」と続かない、「諦める」と今までの苦労が水の泡になってしまう。だから私は「がんばらない」「あきらめない」そしていつも「大丈夫」と声を掛けて行こうと思います。

## 二〇二二年が良い一年になりますように
### ～みぎわのお正月～

みぎわ　伊東将悟

新型コロナウイルスの脅威がまだまだ去ることがない中、みぎわでも新年二〇二二年を迎えました。

今年も感染拡大防止の点から、ご利用者さんは新型コロナまん延以前のような状況に。一時帰宅は大半の方は見送り、みぎわにて過ごしていただくことになりました。

これでもう二度目です。毎年できていたことが急にできなくなるということは、言葉に出さなくともきっと利用者さんの中には、『少しでも自分の家に帰る事ができたら・・・』と思っていらっしゃる方は多かったと思います。

今年は・・・と心の奥底にしまって一年間、我慢されていた利用者の方もきっといたはず。その期待に今回も応えられず、非常に心が痛みました。

そんな中で、少しでもお正月の気分を感じていただければと思い、お正月の食事ではおせちを食べたり、普段食べることのない豪華なお寿司を食べたり、また外が予想以上に冷えたこともあり、職員のアイデアでトランプゲームをしたり、またご利用者のご家族のご厚意もいただき、近くの春日神社に初詣に行ったりと、行動が制限される中であっても少しでもお正月の雰囲気を感じていただけるようなことをしました。

初詣で、利用者さんが何をお願いしたのかはわかりませんが、きっと、神様は利用者さんのお願いを聞いてくれたでしょう。皆さんの願いごとが叶いますように…。

そして、今年こそ、新型コロナが少しでも早く終息し、制限や制約が少なくなった日常に戻りますように。利用者さんもわたしたち職員もそう願っています。

（生活支援員）

## いくつになっても介護予防！

コミュニティセンターぶどうの木　曽根きよ野

昨年九月に百歳を迎え、一年の期限を終了し卒業したYさん。ぶどうの木に来て良かったと思うことを聞いてみました。「何より、新しい友達が出来て良かった。卒業した今でも、手紙のやり取りはしているよ。定期的に会う約束もしたよ。ぶどうの木で習った膝のマッサージをやっているから湿布はいらなくなったよ」と笑顔での回答。

Yさんの一週間のスケジュールはとても活動的です。

地域の居場所に押し車で出向き、オセロを楽しみ、地域のサロンで色々な方と交流し、別の日はお友達の家に出掛ける。近くの足湯の施設に行き足湯に入る。二週間に一度は隣町の図書館に近所の方の送迎で行き、三、四冊の本を借りて読んでは、続きが気になると話されます。押し車での散歩も欠かすことはありません。

ぶどうの木は、うつ予防、要介護状態にならないように短時間の支援をする介護予防拠点施設で、ケアプランに基づき「一日の目標」「一年後の目標」を立て、運動機能や認知機能、口腔機能の維持向上に取り組んでいます。

九十代前後のご利用者が多く、Yさんのように目標達成で卒業出来る方はまれです。多くの方が一年を更新し何年か継続していたり、介護施設へと移行したりしています。

百歳を迎えたYさんは、「地域に支えられて今まで来られた」と言い、地域との繋がりをとても大切にしています。Yさんの姿勢は、他のご利用者様にも、介護予防のためには年齢など関係なく目標を持つことの大切さを教えていると思います。

（主任支援員）

## 障がい者施設から高齢者施設事務に変わって

聖ルカホーム　大石有紀

昨年、親の介護で退職しましたが、縁あってやまばと学園に再就職させて頂きました。

以前は、障がい者施設のやまばと希望寮で約十一年お世話になっていました。

再就職先は、高齢者事業部の聖ルカホームでした。

高齢者の事務に触れるのは初めてで不安もありましたが、新しいことにチャレンジする事にしました。

配属して、一番に感じたことは高齢者事業部の事務は、どこの事業所の会計を持っても困らないように共有することを大事にし、内部統制がされていると思いました。

仕事の内容は主に会計ですが、聖ルカでは、ご利用者様とご家族との面会があります。

コロナ渦の中でもご家族は、顔を一目でも見たくて会いにきます。ガラス越し面会ではありますが、ご利用者様やご家族が喜んだり涙ぐんだりしている姿を見ると私自身もうれしく感動をもらっています。

介護員は、ご利用者様が心地よく暮らせる事を考えて仕事をしていますが、事務員は、それを影で支えている仕事であり、そして、終わりがありようでない仕事をしていると思います。

どこの事業所に配属されても、やまばとの理念にある「ともに生きる」に沿って、これからも、ご利用者様とご家族、そして職員とのふれあいを大事にしていき働いていきたいと思います。

（事務員）

# 歩みのあと

（11月1日～12月31日）

**●全体的なこと**　（）は実施日

▼新人オリエンテーション。（11・2）／横尾先生によるスーパービジョン研修（以下、SV研修）。（11・5）／さざんか、真菜建設に係る定例会。（11月5・19・12、3・17）／消費税監査。（11・11）／事故防止委員会。（11・24）／吉浦先生によるSV研修。（12月3・22）／すみっこの石コンサート。（12・10）

**●個別のニュース**

**〈法人〉**未来の牧之原市を考える集いに理事長が参加。（11／8）／第4回理事会。主な議題は、定期監事監査報告。第2次補正予算等。（12／18）／さざんか建設補助事業の静岡県中間確認。（12／24）

**《垂穂寮》**消防署立会いで防災訓練実施。（11／8）／クリスマス会。おいしいランチやハンドベル演奏。（12／11）／フォトコンテスト。54点の応募。

**《みぎわ》**利用者家族との話し合い。（11／15）／利用者中心のミーティング開催。様々な意見を発表。（11／20）／クリスマス会。楽しい時間を過ごす。（12／19）

**《野ばら》**クリスマス会。（12／24）

**《やまばと希望寮》**浄化槽ポンプ工事。（11／12～22）／牧之原市福祉避難所「被害状況報告訓練」（12／5）／クリスマス会。（12／18）／火災報知機取替工事。（12／13～15）／消防署による火災報知器の確認。（12／22）

**《わかば・もくれん》**さんまのバーベキュー。（11／22）／牧之原市福祉避難所「被害状況報告訓練」（12／5）

**《さざんか》**島田市『すし辰』さん来所。美味しいお寿司でお腹いっぱい。（11／24）／クリスマス会。職員によるマジック・脱出劇で大盛り上がり。（12／11）

**《カサブランカ》**防災訓練。（11／24）／にこにこクリーン大作戦。通勤路のゴミ拾いと交通ルール確認。（12／22）／クリスマス礼拝の動画鑑賞。（12／24）

**《希望の家》**第2回目のボッチャ大会。（11／25）／ご利用者のクリスマスって何の日？の質問から、紙芝居を通して、クリスマスを知る会。（12／22）

**《ふれあい》**クリスマス会。ツリーを飾り、チキンを頬張り、幸せな時間を過ごす。（12／20）

**〈なのはな〉**藤枝陶芸センター講師による陶芸教室。おやつを食べるお皿を作る。（11／26）／ボッチャ、ペタボードなどの後、民生委員さんと交流。（12／24）／家族へ年賀状を書く。（12／29）

**《あさがお》**青野先生のリフレッシュ体操。（11／23）／初倉地区児童民生委員様と作業体験と交流ゲーム。（11／29）／個性的なクリスマス・スワッグを完成。年賀状作りは恒例。

**《WoCやまばと》**インフルエンザ予防接種。（11／16・17）／クリスマス・お歳暮の作業を多くの利用者が参加できるように確認・検討。

**《コスモス》**島田第2地区民児協交流会で花壇の植え替え。（11／26）／島田高校生徒会から、吹奏楽部演奏を収録したDVDとクッキーを頂く。23日のティータイムに鑑賞。

**《かたくりの花》**「ありがとう」メッセージの発表。心温まる笑顔に感動。マリトッツォも食べる。（11／23）／保護者会による大掃除。感謝！。（12／10）／クリスマス会。音楽活動の総まとめ。（12／17）／忘年会はお楽しみランチ。

**《さくら》**秋のウォーキング（吉田公園）。落とし物を見つけ、届けるべきと利用者同士で話し、公園事務所に届ける。（11／5）／手漉き和紙に来年の干支の虎を描き、家族やGHの職員に贈呈。（12／22）

**〈マーガレット〉**誕生会「ファッションショー」音楽に乗って歩く。（11／19）／クリスマス会。ご家族も招待。トーンチャイムで「ドラゴンクエスト」など演奏。練習の成果を発揮。

**〈レタスクラブ〉**浜岡原子力館内映画館へ。（11／10）／仲間が働く店を訪問。数種類のピザを分け合う。（11／30）／クリスマス。1ヵ月前から練習「浦島太郎のオペレッタ」発表。（12／17）

**〈生活支援センターやまばと〉**圏域自立支援推進会議相談支援部会。（11／6）／島田市高齢・障害合同研修。（11／30）／牧之原市地域生活支援拠点説明会。（12／27）

**〈聖ルカホーム〉**牧之原市介護保険事業所集団指導。（11／10・15）／施設新人オリエンテーション。（11／16）／牧之原市防災訓練「福祉避難所設置訓練」（12／5）／フラワーアレンジメントコンテスト。（12／17）／クリスマス会。（12／23）／餅つき。（12／27）

**《グレイス》**救命救急講習、感染も想定した対応を学ぶ。（11／25）／年末お楽しみ会は中止。職員の余興を撮影し、後日鑑賞の予定。（12／17）／「里山の会」の皆様と餅つき大会。（12／27）

**《相寿園》**藤枝市もみじ公園へ外出。豪華な食事と買い物。／利用者の二人が寅年の年男・年女となる。

**《ぎんもくせい》**コロナ禍での経営難もあり、島田市に要望書提出。（11／11）

**《真菜》**すずらん合同感染症研修。家庭内感染時の消毒など。（11／11）／大石相談員が安全運転管理者表彰。（11／12）／忘年会。お汁粉と福引大会。（12／28・29）／牧之原市介護者のつどい。楽々セルフマッサージ好評。（12／12）

**〈すずらん〉**利用者最高齢99歳白寿のお祝い。元気の秘訣は「歩かにゃだめだよ」（11／20）／クリスマスリース作り。指先の運動は認知症予防にも。（12／16）

**〈さふらん〉**BCP作成支援の研修に参加。

**〈シャローム〉**榛原総合病院医療SWと「円滑な退院連携をめざして」意見交換会。（11／17）／併設事業所職員のケアマネ試験合格者研修に協力。

**《オリーブ》**榛原総合病院医療SWと意見交換会。（11／17）／津波による避難訓練を実施。（12／23）

**（ふどうの木）**金谷の「門出大井川」へ外出。／クリスマス会。「飼い葉おけのキリスト」朗読。仮面舞踏会。職員が男性に扮しエスコート。（12／20～24）

**ボランティア活動**

**★活動者名**（敬称略、順不同）

**個人**　内藤きせ、井部博美（星いきいき財団）、小島茂美、大塚春美、尾崎淑子、内藤美奈子、大河原富美子、吉崎伸男。

**団体**　日赤奉仕団（ボランティア）、岩堀造園（草刈・庭木の手入れ・駐車場通路補修）、島田市第2地区民児協委員（花壇の植え替え）、ヤマトコーポレーション石田（花壇の土作り・植え付けのサポート）、JAハイナン女性部「どんぐり」、さくら会（受診送り出し）。

**寄付金状況報告**　（単位：円）

| | 寄付金 | 指定寄付金 | 誌　代 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 4月～11月 | 6,405,784 | 1,107,700 | 1,034,506 | 8,547,990 |
| 12月 | 4,168,021 | 0 | 650,609 | 4,818,630 |
| 計 | 10,573,805 | 1,107,700 | 1,685,115 | 13,366,620 |

**あとがき**

☆表紙の写真はケアセンターかたくりの花のご利用者、大好きなカラオケの時間が嬉しくて、自然と笑顔がこぼれます。

☆遠藤真理さんは、捜真女学校で英語を教えられ、退職後はAI会員、日本YWCA平和・核委員会委員、横浜YMCA常議員として活動しておられます。藤が丘ルーテル教会員。文中のヴラダン・コチさんは、一九六三年生。プラハ音楽院及びプラハ音楽アカデミー卒業後、室内オペラの首席チェリストに。一九八八年旧ソ連の占領下にあった軍事政権に組せず兵役を拒否したため二度投獄され、八九年ベルベット革命で解放されました。プラハ音楽院教授を務める傍ら、世界中で演奏活動を続けています。

☆感染症が再び拡大していますが、皆様のご健康が守られますよう、お祈りいたします。〈I〉